

## 鎌倉地域漁港建設基本構想(素案)策定 に関する検討資料（概要版抜粋）

- 1 鎌倉地域の水産業将来予測
- 2 導入施設と規模の提案
- 3 漁港施設の配置素案
- 4 懸案事項の整理

平成 22 年 7 月 16 日 産業振興課

# 1. 漁港規模の検討に用いる将来予測の諸数値について

鎌倉地域の水産業の将来予測（中期目標：平成 30 年）は、現状維持または過去 5 年平均として各項目の予測値とした。

表 - 1 将来予測（平成 30 年）一覧

項目	将来予測値	単位	設定根拠	
漁業就業者数	60	人	現状維持	
漁業経営体数	20	経営体	"	
漁船隻数	55	隻	過去 5 年平均	
漁獲量	154	ト	"	
漁獲金額	平均魚価	1,195	円/kg	"
	漁獲金額	184	百万円	漁獲量予測値 × 平均魚価

- ・ 鎌倉漁協では、外部参入者（イターン）等も積極的に受け入れている。（増員の期待）
- ・ 専門的漁業者（経営体）が大きく変わっていない。（現状維持）
- ・ 漁船の隻数増加及び大型化が想定されない。  
ただし、同クラスでの更新は想定される。
- ・ 漁協主導による抑制的・持続的な資源管理型漁業による地先海域の資源量維持が可能と推測される。

## 【漁獲量】

平成 20 年の鎌倉地域の総漁獲量は 163 ト

平成 11 年～15 年までの 5 年は減少傾向

平成 15 年以降は、若干の変動はあるものの、大きな変化無く推移（ $H20/H16=1.084$ ）

今後は、このまま比較的安定した推移が続くものと考えられます。

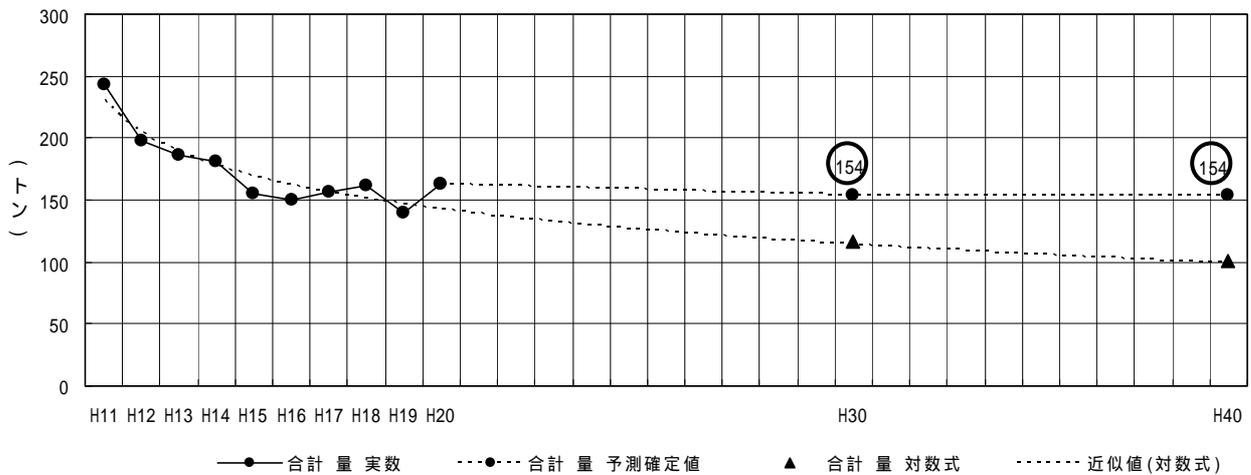


図 - 1 漁獲量（鎌倉地域合計）の推移と将来予測値

【平均魚価】

平均単価（魚価） 過去 3年間 1,194 円 / kg  
 5年間 1,195 円 / kg（採用値）  
 10年間 1,261 円 / kg

表 - 2 鎌倉地域の魚種別平均単価の推移と将来予測値

	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	3力年 平均	5力年 平均	10力年 平均	増減 傾向 H20/H16	増減 傾向 H20/H11	予測値 (平成30年)		予測値 (平成40年)	
																対数式	相関 係数	対数式	相関 係数
合計	1,440	1,447	1,215	1,219	1,316	1,253	1,139	1,132	1,222	1,229	1,194	1,195	1,261	0.980	0.854	1,085	-0.795	1,037	-0.795
漁船漁業計	1,485	1,493	1,249	1,253	1,355	1,287	1,169	1,163	1,266	1,271	1,233	1,231	1,299	0.987	0.856	1,118	-0.783	1,069	-0.783
魚類計	824	836	727	732	867	876	784	753	833	908	831	831	814	1.036	1.102	837	0.183	844	-0.183
かつお	637	700	520	770	580	573	524	650	640	500	597	577	609	0.873	0.785	551	-0.337	534	-0.337
そうだかつお	-	-	60	50	80	58	40	50	42	50	47	48	43	0.862	-	76	0.646	85	0.646
まいわし	348	190	110	370	800	700	500	350	235	200	262	397	380	0.286	0.575	454	0.162	474	0.162
うるめいわし	545	500	200	210	500	250	300	150	65	80	98	169	280	0.320	0.147	5	-0.767	0	-0.767
かたくちいわし	52	80	110	50	80	120	200	100	60	80	80	112	93	0.667	1.538	122	0.325	130	0.325
しらす	2,000	2,000	2,200	2,030	2,990	2,580	3,000	3,000	3,100	3,150	3,083	2,966	2,605	1.221	1.575	3,479	0.867	3,718	0.867
まあじ	473	520	470	620	1,000	1,200	900	600	650	700	650	810	713	0.583	1.480	947	0.473	1,011	0.473
むろあじ類	116	116	160	100	130	124	102	100	105	-	68	86	105	-	-	66	-0.467	56	-0.467
さば類	146	250	250	140	190	200	200	300	210	350	287	252	224	1.750	2.397	288	0.484	305	0.484
ぶり類	1,013	290	390	580	580	614	326	500	700	500	567	528	549	0.814	0.494	406	-0.339	367	-0.339
ひらめ	3,549	3,180	3,110	3,150	2,730	2,320	2,400	1,800	2,430	3,000	2,410	2,390	2,767	1.293	0.845	1,970	-0.748	1,753	-0.748
かれい類	1,839	1,530	1,530	1,350	1,250	1,109	1,157	1,050	950	1,000	1,000	1,053	1,277	0.902	0.544	710	-0.983	555	-0.983
にべ・ぐち類	525	400	400	400	480	389	553	350	-	-	117	258	350	-	-	123	-0.573	61	-0.573
たちうお	282	-	560	410	-	1,300	595	-	-	900	300	559	405	0.692	3.191	598	0.215	651	0.215
とびうお類	251	250	220	250	290	283	229	300	-	-	100	162	207	-	-	107	-0.441	80	-0.441
すずき類	-	1,500	1,070	1,010	1,040	1,054	1,005	1,000	980	1,000	993	1,008	966	0.949	-	1,297	0.439	1,388	0.439
かます類	857	720	710	740	1,000	1,200	1,000	850	-	-	283	610	708	-	-	428	-0.343	351	-0.343
うまずらはぎ	464	-	-	-	-	1,500	826	1,300	-	-	433	725	409	-	-	661	0.210	730	0.210
その他魚類	904	1,150	1,020	950	1,020	1,075	1,034	1,100	1,500	1,200	1,267	1,182	1,095	1.116	1.327	1,285	0.560	1,337	0.560
その他水産動物類計	3,247	2,943	2,529	2,533	2,510	2,374	2,181	2,181	2,437	2,129	2,249	2,260	2,506	0.897	0.656	1,831	-0.946	1,647	-0.946
いせいび	5,914	4,820	4,400	4,960	4,660	4,329	4,541	3,800	4,500	3,500	3,933	4,134	4,542	0.809	0.592	3,431	-0.838	3,128	-0.838
あわび	7,173	7,500	7,000	6,420	6,330	6,302	6,731	6,500	6,400	6,500	6,467	6,487	6,686	1.031	0.906	6,050	-0.770	5,876	-0.770
さざえ	1,189	1,170	1,100	1,080	1,170	994	804	800	750	700	750	810	976	0.704	0.589	647	-0.840	558	-0.840
こついか類	957	1,080	930	820	890	1,024	1,050	950	-	-	317	605	770	-	-	328	-0.528	207	-0.528
するめいか	-	880	840	710	750	674	736	700	760	500	653	674	728	0.742	-	-	-0.760	-	-0.760
あかいか	2,849	3,395	2,330	2,330	2,400	2,300	0	1,800	-	1,300	1,033	1,080	1,870	0.565	0.456	215	-0.723	0	-0.723
その他のいか類	2,849	3,395	2,330	2,530	2,390	1,964	1,928	1,900	1,400	1,500	1,600	1,738	2,219	0.764	0.527	1,146	-0.867	853	-0.867
たこ類	1,796	1,300	1,300	1,410	1,490	1,406	1,660	1,000	810	900	903	1,155	1,307	0.640	0.501	883	-0.653	767	-0.653
海藻類計	400	400	400	400	400	400	400	400	350	350	367	380	390	0.875	0.875	367	-0.532	361	-0.532
わかめ類	400	400	400	400	400	400	400	400	300	350	350	370	385	0.875	0.875	352	-0.486	343	-0.486
わかめ類養殖	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	1.000	1.000	300	-	300	-

注-鎌倉地区の魚種別単価は不明のため、近接する腰越漁港等における同魚種の同年の単価を採用した

資料 - 腰越漁港港勢調査他周辺産地単価情報

$$\begin{aligned}
 \text{漁獲金額} &= \text{漁獲量予測値} \times \text{平均単価} \\
 &= 154 \text{ トン} \times 1,195 \text{ 円 / kg} \\
 &= 184 \text{ 百万円}
 \end{aligned}$$

2. 導入施設と規模の提案

表 - 3 導入施設の考え方と施設規模の概算結果一覧

分類	施設	漁業者要望案		導入施設と規模の提案（漁港整備構想素案）		備考
				鎌倉漁協への聴き取りや一般的に用いられる数値を基に「漁港計画の手引き」（全国漁港協会；平成4年度改訂版）に準じて所要面積を算定		
漁港施設用地	天日加工場	ワカメ天日干し、その他漁業活動に供する用地 ワカメ天日干しについて材木座地区では海岸利用の要望がある。	2,540 m <sup>2</sup>	加工場 / 天然・養殖ワカメのポイル、天日加工用地 全 20 経営体（坂ノ下、材木座）	2,500 m <sup>2</sup>	漁期以外は市民開放広場との兼用が考えられる。
		漁業者案には無いが、漁労を円滑に進めるための用地としては、右記が必要であると考えられる。		野積場 / 漁網等の仮保管用地 船曳網、定置網、刺し網等	510 m <sup>2</sup>	
				漁具保管修理施設（漁具干場） / 漁網等の修理・干し場用地 船曳網、刺し網、ワカメ養殖筏等	2,813 m <sup>2</sup>	
	網小屋 （漁具保管倉庫）	漁具保管用の倉庫 理想的には、長屋のような共同利用施設として整備することが望ましい。	550 m <sup>2</sup>	漁具保管修理施設（漁具倉庫） / 漁具を格納するための倉庫用地 船曳網、定置網、刺し網等	1,800 m <sup>2</sup>	材木座地区のワカメ採藻に供する浜小屋についても検討する。
整備施設 漁港環境	多目的広場 （市民利用スペース）	朝市や魚まつりの他、漁協開催イベントや市民が広く利用できるスペースとしての漁港内に多目的な用地 国道 134 号側は緩衝緑地	2,950 m <sup>2</sup>	漁港環境整備施設用地 / 緩衝緑地等 計画用地面積の 20%	2,175 m <sup>2</sup>	市民開放は天日加工場用地兼用でも検討する。
輸送施設	駐車場 （漁業者用）	主に、漁業従事者が利用する駐車場（25 台） 駐車場の利用者には、漁労作業を手伝う近隣住民等も含まれる。	625 m <sup>2</sup>	駐車場 / 漁業者及び関係者（手伝い含む）が利用 25 m <sup>2</sup> /台 ×（20 台 + 20 台）: 20 台/経営体 + 関係者（手伝い）	1,000 m <sup>2</sup>	一般利用は、多目的広場の開放などを検討する。
	臨港道路	漁業者が利用漁船及び網小屋にアクセスするための道路	適宜	道路 / 適宜配置	適宜	
係留施設	物揚場	動力船 3 隻未満（3 隻）が利用する係船岸	50m	物揚場 / 陸揚げ、出漁準備及び休けいとして利用 腰越漁港等の実績から想定	40m	
	船揚場 （斜路）	1 隻未満の船外機船の船揚げに利用する斜路	110m	船揚場 / 船外機船の保管、各種漁業の陸揚げ、荷捌きにも利用 腰越漁港等の実績から想定	146m	既存の漁具置き場や斜路も継続して利用することも検討する。
保蔵及び加工施設 漁獲物の処理	付加価値化 機能施設	漁業者から希望はあるものの、具体的な提案・計画は今後の漁港計画策定と合わせて検討することになると考えられる。		蓄養施設 / 価格調整・出荷調整用の蓄養（活魚）水槽	2,250 m <sup>2</sup>	サザエ、イセエビ、カワハギ等
				海水取水施設 活魚水槽や、荷捌き・仕分け作業等の際に必要な施設	要検討	漁獲量自体は少ないため、小規模で可能と想定される。
				屋根付き荷捌き施設 鮮魚・活魚出荷主体の高級魚介類への付加価値化	要検討	衛生管理重視の観点から、滅菌装置等の併設も想定する必要がある。
数量	要望用地面積 = 6,665 m <sup>2</sup> 要望係留施設延長 = 160 m		所要用地面積 = 13,048 m <sup>2</sup> 所要係留施設延長 = 186 m		道路、岩壁敷き泊地等は除く	

### 3. 漁港施設の配置素案

概略的な施設所要量（係留及び用地等）の算定結果から、漁港施設について配置素案（参考）を下図に示す。

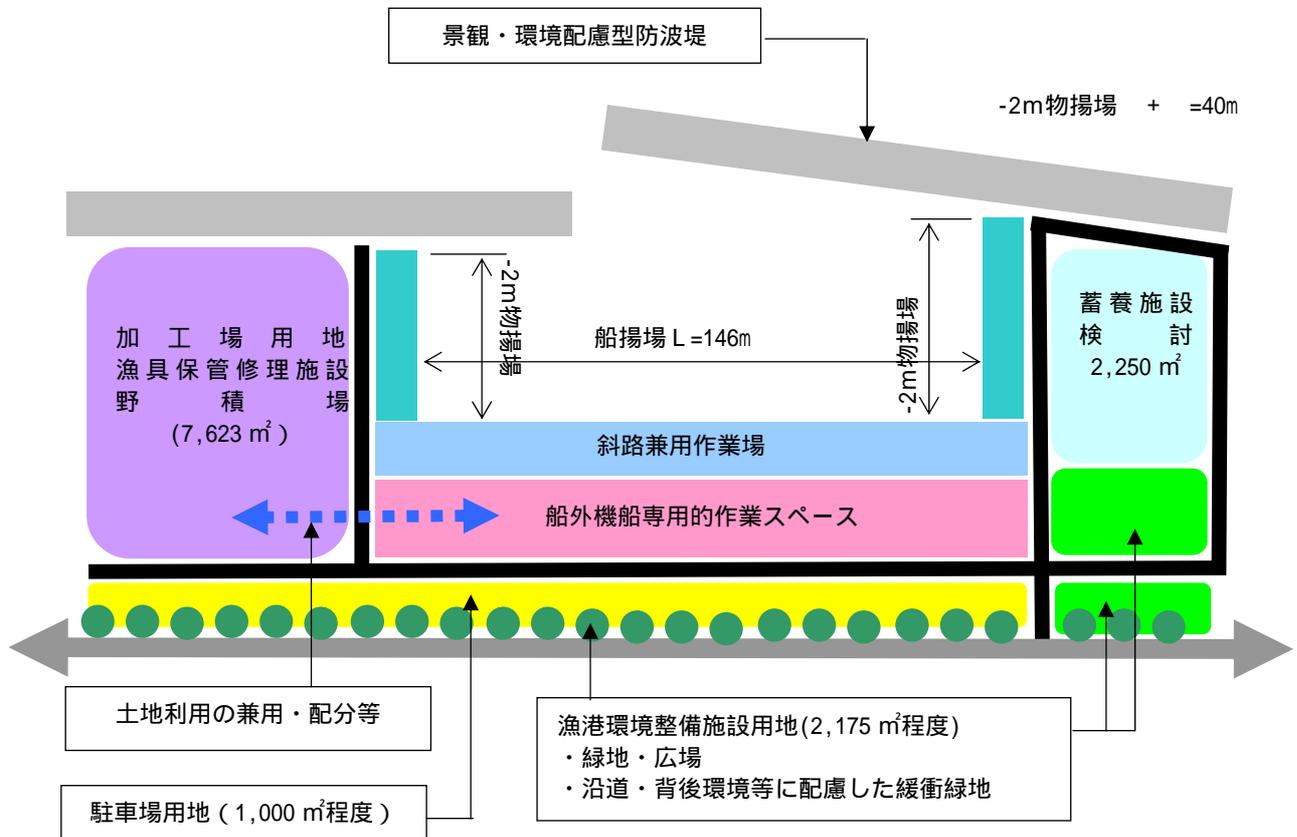


図 - 2 漁港（施設）整備に関する配置素案

- ◆ 配置されている施設は、概略的な施設所要量（係留及び用地等）の算定結果から必要最小限の規模であるが、今後、関係者間の協議により削減することも考えられる。
- ◆ 各施設（用地）の規模は、現状あるいは将来予測においての所要量（充足率 100%）であり、これを越える可能性は少ない。
- ◆ これらの導入施設及びその規模については、今後の協議で縮減する方向で検討を進める方針とする。

#### 4. 懸案事項の整理

鎌倉地域における漁港（施設）の整備にあたっては、同地区漁業の抱える様々な問題の改善（効果）が期待される一方、主に鎌倉海岸を重要な生活環境・地域資源として捉える市民や海洋レクリエーション関連事業者及び一般海岸利用者等の理解と合意形成が必要不可欠である。

しかし、現在、必ずしも行政と漁業者、市民、一般海岸利用者、海洋レクリエーション事業者及びそれら関係者との間で十分な協議と合意形成が得られているとは言い難く、今後、漁港（施設）整備に向けて相互理解を深めていく必要がある。

また、鎌倉地域で営まれている漁業に対する市民理解（認知度の向上）や、地元海産物の供給など地域貢献に対する市民からの要望、水産業振興を実現するための漁業関係者（流通を含む）の自助努力あるいは支援可能な施策など官民双方の行動計画についても協議していく必要がある。

さらに、これらの合意形成、相互理解を図るにあたり、当該地域（鎌倉海岸）の環境調査や物理特性（波浪、潮流、地形変化）の把握など、工学的評価（定性評価を含む）を充実させていく必要がある。

##### 【懸案事項一覧】

市民及び広義関係者との合意形成が必要。

漁港（施設）建設と海岸利用適正化の関係性について相互理解が重要。

鎌倉地域漁業に対する市民理解、地元海産物供給に関する要望の把握。

水産業振興の実現に向けた漁業関係者（流通を含む）の自助努力や支援可能な施策の検討。

自然環境、海岸特性（波浪、潮流、地形変化）に関する工学的評価（定性評価を含む）の充実。

「堀込型漁港案」の再検討比較（維持管理を含めた事業費などの定量的評価）が必要。